

意見・質問	対応の概要・方向性
アクションプランをネット上で掲載すると思うが、関連資料のデータについても見られるようにしてはどうか。	他の区の状況を踏まえながら検討していきたいと考えます。
<p>○区のプランなので、各々まとめていただき、具体例として地域を紹介する。</p> <p>○特に、社会性を身につけることがこれからの「健康でいきがいをもって生活する上」で重要であるので、「社会参加」(広島市高齢者いきいき活動ポイント事業)など、地域行事などへの参加を促進する。</p> <p>○障害者の親子が共に活動ができる行事(地域との交流や小さなイベントなど)を専門職等と共にできないか。</p> <p>[補足] 畑賀地区の18歳前後の障害児(者)の親より、「地域の人に子どもたちの存在を知ってほしい」「障害者版の地域サロンを開いてほしい」との声がある。現在、地域にあるサロンは主に「高齢者」の集いの場であり、地域のサロンの担い手も障害者にどう接してよいかわからない。障害者版地域サロンを実施するにあたり、専門職(日頃から障害者と接しているような人、施設職員)の力を借りたい。</p>	<p>○区全体で行っている取組については地域名を出さずに、特定の地域で行っている取組は地域名を出します。</p> <p>○③ー世代間を超えた交流にある具体的な取組「幼児から高齢者まで世代を超えた交流の促進」に含めた取組として整理をしました。【参考資料3を参照】</p> <p>○①ー(4)障害者世帯への支援にある具体的な取組「障害者自立支援協議会安芸区地域部会の活用」に含めた取組として整理をしました。【参考資料3を参照】</p>
(P16) フリースペースの活用 子ども服の交換会を削除して頂きたいです(現在行っていない為)。	御意見のとおり修正しました。【参考資料2を参照】
(P22) ○世代間を超えた交流は○地域の支え合いの中に入っているのではないのでしょうか。 中山間地の活性化等後の最後の項目に出ており、つながりが切れてしまっているように感じます。 矢野の家はまさしく子どもから高齢者まで様々な世代の住民が交流する場であり住みやすいまちづくりを目指すものであります。 使われている写真はそれを表すものと考えている為、できれば、「フリースペースの活用」の後部分に入れていただきたいです。	御意見を踏まえ、議事資料3のP16・17のとおり修正しました。【参考資料2を参照】
継続している部分については、過去の実績を勘案してあるので、引き続きよりよく成るような、取組がなされると思います。この部分について各地域での取組成功例があれば、他地区に波及すべく情報提供をお願いしたい。	成功事例があれば、随時取組例を紹介するようにします。
(P16) 新規の取組もこの先5か年を考えての取組です。今一番必要としているのは、人材育成ではないかと考えます。「地域のボランティア会議の創設」は適任する構成員の選考が急務ではないのでしょうか。より具体的な案をつくり、出来るだけ早く具現化する必要があります。	船越地区では、安芸親子チャレンジクラブが創設され、人の輪が広がりつつあります。安芸親子チャレンジクラブと同様の取組がほかの地区においても広がっていくように、ボランティア会議を創設するための構成員の人材育成に努めます。
(P19) 学区内でこのように明確でないのに温度差が出来ては、増々有名無実の団体に成りつつあるのが事実ですが、国の方針からしても今後も多発するであろう災害対応に於ける地区防災・減災(敢えて追記)の行政対応には、自ずと限度があり即効性が望めない現状に鑑み防災の二文字に甘んじることなく、防災に続く減災の文言を強烈に示し住民主体でのボランティア団体として、これから先の災害に備え行政の支援を持って、大きく育てるのは責務でもあります。 人的被害を無くすには、一にも二にも警戒区域からの全員避難するのが減災と成るわけですが、現状は区行政主体の防災訓練が、区内で学区単位の輪番制で数年に一度、しかも形式的に実施(天候等で中止に成れば、次の番は数十年先に成りその間は訓練がない)される地区防災の取組で、今後も頻発する災害から住民の身を守ることが、果たして出来るのでしょうか? 現実論からして「自主防災会は、地域で一番強い(権力・村度に影響受けない)独立組織団体」を目指し地区住民の生命財産を守るには、行政からの「ヒト・モノ・カネ(活動資金はゼロ)」の理解を得ないと成しえないと断じたいと思います。 ついでに、防災の面では防災だけではなく減災も必要となっており、「防災・減災」として打ち出すべきではないのでしょうか。	御意見を踏まえ、議事資料3のP19の「・ 防災出前サロンの開催」、「・地域防災力の向上」の説明文を修正しました。【参考資料2を参照】

意見・質問	対応の概要・方向性
<p>(P19) 「災害に強く、安全・安心なまちづくり」では、防災と防犯が一緒になっているが、どちらも大きな課題であり、別々にすべきではないでしょうか。</p>	<p>本市の基本計画の素案でも、防災と防犯のテーマをもとに、「安全・安心に暮らせる生活基盤の整備」と整理していることを踏まえて、アクションプランでも同様の整理をしています。安芸区においては、平成30年7月豪雨災害により甚大な被害を受けたことから、「災害に強く」という文言を入れています。</p> <p>【参考：広島市基本計画素案】 第6章 安全で安心して生活でき、豊かな自然を将来に引き継ぐまちづくり 第1節 安全・安心に暮らせる生活基盤の整備 第1項 災害に強いまちづくりの推進 《現状と課題》 (略) 《基本方針》 1 豪雨災害被災地の復興まちづくりの推進 2 災害に強い都市構造の形成 3 災害に強い組織体制の整備 4 災害に強い市民活動の推進 第2項 日常生活の安全・安心の確保 《基本方針》 1 犯罪の起こりにくい安全なまちづくりの推進 2 消費者施策の推進 3 交通安全対策の推進</p>
<p>(P32) 毎年、コミュニティ交流協議会に報告して進行管理をしていくとあるが、具体的にはどういった進行管理をしていくのかが知りたい。アクションプラン取組項目整理表の具体的な取組の背景にある各取組も管理をしていくのかどうか。</p>	<p>【参考資料4を参照】</p>